

## 令和4年度第2回 感染症発生動向調査部会

令和4年5月18日

月番：加藤 達雄

### 1 前月の感染症発生動向について（2022年第14週～17週・4月）

#### <全数把握対象疾患>

- ・結核患者は、30代の1例を除き、残り11例はすべて70才以上の高齢者であった。潜在性結核感染症は、12例の報告があり、本年累計で前年比138.1%と増加している。
- ・4類は、つつが虫病1例、レジオネラ症1例の発生があった。
- ・5類では、梅毒は6例報告があり、累計では前年比158.8%と増加している。

#### <定点把握対象疾患>

- ・RSウイルス感染症は、前年同期比180.8%、2019年同期比150.9%であり、やや増加している。
- ・その他の定点把握対象疾患で、目立って増加している疾患はない。

### 2 検討すべき課題

#### <保健環境研究所から>

- ・日本紅斑熱に関する医療関係者向け感染症疫学情報の発行について

### 3 情報提供すべき事項

- ・複数国で報告されている小児の急性肝炎について

小児の急性重症肝炎患者が増加していることが、2022年4月15日に世界保健機関(WHO)より報告された。2022年5月10日 国立感染症研究所の報告では、暫定症例定義を満たす可能性例が、国内で7例報告されている。7例のうち1例から新型コロナウイルスが検出されており、7例のうち2例は新型コロナウイルスワクチン接種歴があった。また地方衛生研究所における病原体検索では、1例からアデノウイルス1型が検出された。本邦の感染症発生動向調査から、ウイルス性肝炎の小児の症例数が著しく増えている兆候は見られていない。アデノウイルスに起因する症候群が流行している兆候も見られない。

### 4 情報提供（月番委員専門分野から）

- ・新型コロナ感染症診療の手引き 7.2版

薬物療法：ソトロピマブ（ゼビュディ点滴静注液 500mg）「本剤は、オミクロン株の BA.2 系統に対する有効性が減弱するおそれがあるという報告（EC50 および EC90 の平均値はそれぞれ野生型の 15.7 および 35.1 倍）があり、他の治療薬が使用できない場合に本剤の投与を検討することとされている。」

### 5 その他（感染症対策推進課から）

- ・欧州及び米国における小児の原因不明の急性肝炎の発生について（協力依頼）

---

#### <検討結果>